

全国協議会 ニュース

2025年10月1日発行 第398号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会

〒101-0031 東京都千代田区東神田 1-3-4KT ビル 3 階

TEL：03-5823-6360

FAX：03-5823-6365

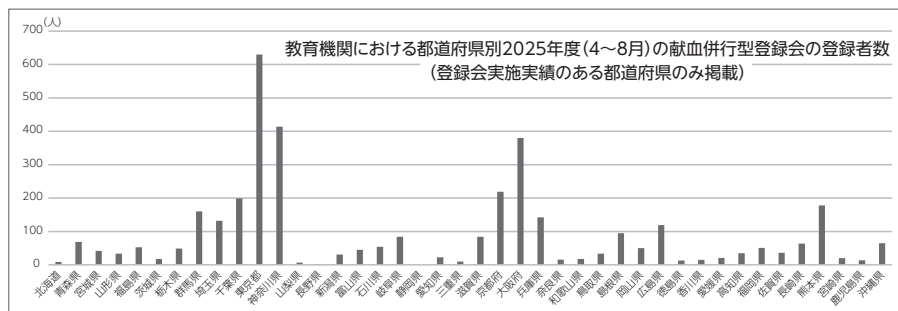
発行責任者：梅田正造

題字：仲田順和

https://www.marrow.or.jp

E-Mail:office@marrow.or.jp

若いドナーを増やすために! 首都圏での若年層対策実施



骨髄バンクのドナー登録者の高齢化が急速に進んでいます。現在ドナー登録者は半数以上を40歳代・50歳代が占めており、その人たちが55歳で卒業すると今後10年以内に23万人のドナープールが失われます。そのため、若いドナーを増やすための対策が喫緊の課題となっています。

東京都内には多くの大学キャンパスがあり、献血バスによる献血が実施されています。

お膝元の骨髄バンクを支援する東京の会では、平日に参加できるボランティアが少ないため、今まで都内大学への説明員配置ができていませんでした。若年層対策として都内大学での献

血併行型登録会実施について日本骨髄バンクから要請があり、全国協議会加盟の首都圏ボランティア団体との打ち合わせが開催されました。そこで埼玉骨髄バンク推進連絡会・千葉骨髄バンク推進連絡会・神奈川骨髄移植を考える会の説明員と連携を取ることで、県境を越えての活動が始まりました。毎月定期的に都内の大学献血日程が首都圏の団体と東京都の説明員に共有され、参加できる説明員が手を上げる方式を採りました。首都圏では電車一本で都内会場へ行ける県外の説明員もいることから、今までできなかった大学キャンパスでの献血併行型登録会が毎週のように実施できるようになりました。今後も継続して若いドナーを増やします。

(骨髄バンクを支援する東京の会
事務局長 若木換^{あらた})

「白血病と言われたら」第7版を紹介いただきました

9月10日(水)毎日新聞朝刊「くらしナビ医療」に「白血病と言われたら」第7版の記事が掲載されました。

1996年に始めた白血病フリーダイアルの相談経験を踏まえ、多くの患者さんやご家族が知りがっている情報を届けるため、1999年8月に初版を発行することになった経緯や上下巻の内容などを「白血病患者に寄り添い26年」のタイトルで詳細に紹介、また、

紙面に先行してウェブ版でも配信されました。

その反響は大きく、新聞に掲載された当日の朝から全国協議会の事務所の電話が鳴り続け、メールでの注文もあり、それから1週間の間に直近約3カ月分と同等の注文が入りました。

ホームページから单元毎に無料ダウンロードもできますが、第7版のアクセス数は既に第6版の1年分(約1,500

件)を上回る1,865件に達しました。

患者さんご本人やご家族からの電話では注文だけではなく、患者さんが置かれている状況なども語られ、病気と向き合うための情報が求められていることを痛感しました。



毎日新聞 2025年9月10日(水)付朝刊

毎月第2・第4土曜に前述の「白血病フリーダイアル (0120-81-5929)」を開設しています。ハンドブックと合わせてご活用ください。

(「白血病と言われたら」のご注文はホームページまたは全国協議会事務局まで)

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンク NOW

《MONTHLY JMDP(9月12日発行)より抜粋》

■日本骨髄バンクの現状(2025年8月末現在)

	7月	8月	現在数	累計数	
ドナー登録者数	2,766	2,312	564,613	1,008,903	
患者登録者数	218	202	1,760	71,974	
採取数	骨髄	60	53	—	27,323
	末梢血幹細胞	46	35	—	2,616
	合計	106	88	—	29,939

2023年4月から統計基準が移植件数から採取件数に変更

■8月の区分別ドナー登録者数

献血ルーム／589人、献血併行型集団登録会／1,686人、
集団登録会／8人、その他／29人

■8月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 5,077人／20代 99,485人／30代 137,612人
40代 208,313人／50代 114,126人

■8月の20歳未満の登録者 174人

注)数値は速報値のため訂正する場合があります。

関係機関訪問 報告



笹川会長(左から2番目)を囲んで

8月7日(木)に梅田理事長、若木副理事長はじめ4人で「骨髄・さい帯血バンク・献血推進議員連盟」会長の笹川博義衆議院議員を訪問しました。

梅田理事長からは「2024年度活動報告書」を基に、日頃の協議会の活動について報告および情報交換が行われました。

若木副理事長からは「白血病と言わらたら(第7版)」を贈呈しました。「白血病と言われたら」は改訂を重ね、治療を乗り越えようとされている患者さ

んとそのご家族に役立てていただいていること、執筆いただいた専門医や最前線にいる医療従事者の方々、さらには日本骨髄バンクや治療経験者からも全てボランティアとしてご協力いただいで出来上がったことなどに、ご興味ご関心を持っていただきました。

本書は国会図書館にも置いていただいています。これは笹川会長からもご指摘いただいたところでもありました。

また、日常に説明員としてドナー登録会で活動をしているボランティアが感じていることに、ドナー登録の必要性をご理解いただきながら、入院等で連続した休みが取得できないことが理由でドナー登録できない方が多くいるということがあります。弊職からは、日本骨髄バンクが導入を進めているドナー休暇制度が広く導入されることは、単にドナーのコーディネート中止

が減るだけではなくドナー登録者の飛躍的な増大にも繋がる可能性をご紹介します、ドナー休暇制度の導入拡大にご支援をお願いしました。笹川会長は「ドナー休暇制度については企業側の責務として捉えてもらいたい。比較的規模のある企業であれば対応できるであろうが、問題は中小企業だと思う」と、思うように導入が進まないポイントについても理解いただいております。

当日は、日本赤十字社血液事業部及び厚生労働省移植医療対策推進室も訪問し、「設立35周年2025全国骨髄バンクボランティアの集い in 名古屋」へのご臨席の御礼、「2024年度活動報告書」に基づいて、特に協議会が行っている患者さんへの経済的支援活動、説明員が登録会で感じている課題等について情報交換や支援をお願いいたしました。

(全国協議会 理事 鈴木敏生^{としお})

「いのちの輝き展」山形大学医学部附属病院のギャラリーで開催



2025年8月から2026年3月までの予定で、山形大学医学部附属病院YUMeアートギャラリーの掲示スペースに、全国骨髄バンク推進連絡協議会のパネル「いのちの輝き展(あやちゃんの贈り物、MAMOのメッセージ)」、AC広告のポスター等を展示しています。長年、このスペースで骨髄バンクの啓発活動をしたいと考えていました

が、ようやく実現しました。6m幅のスペースにいのちの輝き展など、多くの骨髄バンク関連の展示をしたいと考えています。

患者さん、医学部の学生さん、病院の先生や看護師さん、多くの皆さんにご覧いただける場所になっています。山形大学医学部附属病院へおいでの際には、ご覧いただきたいと存じます。

掲示作品は2カ月ごとに張り替えたいと考えています。皆さんの感想もお寄せいただければ嬉しいです。

思い起こせば、1998年9月26・27日全国ボランティアフェスティバル山形の会場の一角に「いのちの贈り物展(あやちゃんの贈り物展・MAMO

のメッセージ展)を展示し、皆さんから、“感動した”との感想をいただきました。その後、県内各地で続けてきた「いのちの輝き展」、「医療講演会」などの啓発事業は東日本大震災、コロナ禍のために自粛を余儀なくされ、「いのちの輝き展」もできずに来ました。

また、毎年の骨髄バンク推進月間の時期(10月~11月末)、山形県主催で県庁・遊学館・主な銀行本店の一角に掲示いただいています。ご協力ありがとうございます。

※パネルの貸し出し、問い合わせは全国協議会事務局まで

(骨髄バンクを支援するやまがたの会
会長 小野寺南波子^{なみこ})

骨髄バンク支援
チャリティーコンサート
首都圏各地で開催

今年も恒例のチャリティーコンサートが開催されます。料金など詳しいことは二次元バーコードからご確認ください。
ご来場をお待ちしております。



演奏者(3会場共通)

三戸素子(ヴァイオリン) 小澤洋介(チェロ) 高田匡隆(ピアノ)

11月23日(日)	11月24日(月祝)	11月29日(土)
開場 14:30 開演 15:00	開場 13:30 開演 14:00	開場 13:30 開演 14:00
2025 響~Hibiki~	コンサートと落語会 骨髄ドナーと移植患者の対談	ピアノ三重奏の調べ 骨髄バンクミニシンポジウム
求道会館(東京都文京区) 南北線東大前駅 徒歩5分	成田市文化芸術センター なごみの米屋 スカイトウンホール JR成田駅前	日本バプテスト浦和キリスト教会 JR北浦和駅西口 徒歩10分
骨髄バンクを支援する東京の会	千葉骨髄バンク推進連絡会	埼玉骨髄バンク推進連絡会

病院内に防音室を寄贈～M for Mの活動～



M for M の活動についてご紹介させていただきます。この活動は、白血病により長期入院した20歳のチェリスト山本^{かんち}栞路の発案に始まりました。入院は音のない世界です。息子の栞路はその辛い生活を300日経験しました。その想いを両親が引き継ぎ、栞路の先生方や仲間の多大な支援により活動が広がっています。

M for M は、音楽と医療を結ぶ活動です。長期入院患者の皆様と患者を治療する医療従事者の皆様のために心のリハビリ用の防音室設置運動を進めることを目的として2024年に設立、多くの御支援をいただいたおかげで今年の9月に千葉大学医学部附属病院内



「山本さんご家族」

に最初の防音室の寄贈が実現しました。二つのMは、musicとmedicineです。Music for MedicineとMedicine for Musicの二つの意味を込めて、音楽の力が医療環境向上の一助になることを目指します。

心のリハビリのための防音室は、入院患者の方々ならびに医療従事者の皆様へ日常のひとつを届けます。室内ではひそひそ話になる必要はありません。普通の声で電話したり、笑ったり、好きな歌を口ずさみ、楽器も演奏できます。リモートワークやリモート学習、海外からの方のお祈りにも使えます。

2024年4月30日(火)にサントリー

ホールのブルーローズにて「メモリアル・スペラ 第1回チャリティコンサート」が開催されました。音の粒が会場いっぱいに広がって降り注ぎ、演奏家と聴衆の想いが一つになる様子を肌で感じました。その後、M for M主催・共催の演奏会は、現在まで6回行われ、今後も開催されます。

M for M の理念に賛同する方々、コンサートにご来場の方々、医療従事者の方々が、M for M の活動の輪を広げてくださっています。ヤマハのご協力により栞路の「生演奏」の再現も始まりました。

栞路は、幼少よりクラシック音楽を学び、古今東西の音楽を奏でてきました。音楽の伝承は、遠い時代や場所にいた先人からの贈り物のたすきを受け取り、次の世代へ想いを受け渡すランナーのようです。栞路は今も我々の伴奏・伴走をしています。長期入院患者の方々と医療従事者の方々のいる全国の病院へ心のリハビリのための防音室を届け終わるまで活動は続きます。

(山本昭夫 (M for M))

タオル帽子 (ケア帽子) の贈呈活動と製作講座開催



千葉骨髄バンク推進連絡会ではがん治療で脱毛された方にお使いいただけたらと毎年クリスマスにタオルで作った帽子を贈る活動をしております。また、昨年に続き今年も日本赤十字看護大学生に帽子を作る講座を5月15日(木)、22日(木)、28日(水)、6月5日(木)の4日間千葉県赤十字会館で開催し、計25人の参加がありました。会館の中に義肢製作所があり見学、人差し指を石膏で固める等の実習も行われたようです。

帽子は手作りで針仕事など苦手な方も多く、何のために作るのかを理解していただければモチベーションが上がります。そこで実習前に「つな

げよう命のバトン」の動画を鑑賞、実際に脱毛した患者様を見ていただき帽子の必要性を知っていただくことから始めました。

2時間30分の限られた時間内で完成するためにあらかじめキットを用意、すぐに取り組めるように準備しました。そして出来上がった方から裁断に入り、時間のある時に復習していただけるよう持ち帰っていただくという方法で行いました。初めは皆さん不安そうでしたがだんだんと形になっていくと嬉しそうに、楽しく、明るく作業してくださり全員が完成されました。最後に出来上がった帽子を被り写真を撮りました。

看護師さんになられがん患者様の治療に当たられたときに、帽子を作ったことを思い出してくださるといいなと思います。また、患者様にも優しく接してくださると思います。ケア帽子活動はたくさんのご支援で成り立っています。今回も全国協議会のすぐ近くに

あります株式会社日東タオル様ご提供のタオルを使わせていただきました。日本赤十字社千葉県支部、千葉県ライオンズクラブ、赤十字奉仕団、たくさんの方々からご支援をいただいております。タオルは身近にあるもので、作るのもそう難しくありませんのでたくさん持つことができます。

抗がん剤は発汗作用もありますので、タオルなら汗を取り洗濯もでき衛生的です。色、柄も豊富です。患者様からは「夏でも病院の中は寒く頭が冷える、帽子が暖かった」「帽子はこれからの闘病の仲間になります」「花柄など心が明るくなりました」などのお声。看護師さんからは「厳しい治療が続いている中、帽子のプレゼントを見て皆さんの明るい顔が垣間見えました」等の感想もいただいております。

これからもこの活動を続けていけたらと思います。2024年度は千葉県、東京都の11病院に550個のプレゼントができました。

(千葉骨髄バンク推進連絡会 西島一恵^{かずえ})



東京

骨髄バンクチャリティ 麻雀大会 2025 in 東京



8月24日(日)、新橋にて「ジェイリースプレゼンツ 骨髄バンクチャリティ麻雀大会 2025 in 東京」を開催しました。本大会は、麻雀を通じて骨髄バンクの活動を支援し、患者さんやご家族の希望につなげていくことを目的

として2005年に始まり、多くの方々に支えられ、今年で20年の節目を迎えることができました。当日は全国各地から多数の参加者が集まり、プロ雀士と一般参加者が一堂に会して卓を囲みました。勝敗を競うだけでなく、麻雀を愛する人々が交流し、楽しみながら社会貢献に取り組めるのが本大会の大きな特色です。会場では募金活動も行われ、集まった寄付金は全国協議会の加盟団体を通じて、患者支援やドナー登録推進のために活用されます。

参加いただいたMリーグ・赤坂ドリブンズ所属の浅見真紀プロ(写真左)は、「麻雀に関わりながら、誰かの命を救うことができるこのイベントは奇跡だと思います。携われて光栄です!」と語られ、プロの熱意と温かい言葉は参加者の心を大きく動かしていました。また、茨城県から参加された河村孝さん(写真右)は、「20年位前

に麻雀仲間の山口さんが骨髄バンクに命を救われたことがきっかけでドナー登録をしました。大会に参加してより一層骨髄バンクへの関心が高まり、今後も活動に協力していきたいと強く思いました!」と話されました。

麻雀は「人と人をつなぐゲーム」とよく言われます。この大会では卓を囲むことで絆が深まり、その輪が命をつなぐ活動へと広がっていきます。

最後に、本大会の開催にあたり多大なご協賛を賜りました企業・団体の皆さま、運営を支えてくださったボランティアの皆さまに、心より御礼申し上げます。皆さまのお力添えにより、20年の歩みを重ねることができました。今後も麻雀を通じて「人と人、そして命をつなぐ大会」であり続けられるよう一層尽力してまいります。

(全国協議会青年部部長 二階堂瑠美
理事 山口明大)

鹿児島

かごしまの 盛りだくさんイベント

鹿児島市の繁華街にある大型商業施設内の天文館図書館。ショッピング、食事、イベント、ホテルなどが入居する総合ビル内の二つのフロアを占める、明るく開放的で家族連れでも楽しめる図書館です。ここのギャラリーで9月12日(金)から15日(月・祝)まで「あやちゃんの贈り物展」を開催しました。鹿児島では4回目になります。実物を直接拝見すると画集や写真では味わえない表現の美しさ、繊細さ、純真さに驚かされます。画家になりたい、生きたいという希望を持ちながら闘病生活を送ったあやちゃんの健気さをとてもいとおしく感じます。

あやちゃん展に併せて一日だけギター演奏会と医療講演会も開催したところ、多くの方が集まって熱心に聞き入っていました。ギター演奏は名曲「禁じられた遊び」「アルハンブラの思い出」など。医療講演会は、鹿児島で初めて骨髄移植を行った川上清医師(右の写真)による「こどもの白血病」についてと鹿児島における骨髄移植の歴史とその治療成果に関するもので、ほかでは聞くことのできない貴重な講話でした。



地元テレビ局の取材があり「あやちゃんの贈り物展」を中心とした番組に編集されてニュースで放映されました。番組の終わりは、「骨髄移植が果たせず、1990年に亡くなった彩子さん。短い生涯で残した8,000枚の絵は35年経った今も骨髄バンクの必要性を語



りかけています」とのナレーションで締められ、視聴した県民はこの番組を見てドナー登録の重要性を認識したものと思います。かごしまの会のこれからの活動の源泉となるでしょう。

(かごしま骨髄バンク推進連絡会議
大田耕一郎)

心からのご寄付に感謝申し上げます ●8月21日～9月20日(敬称略)

当協議会への寄付金は税制上の優遇措置を受けられます。

●一般	現金 1,531,046 円	株式会社 ナルックス	現金 1,088 円
株式会社サカタのタネ	現金 67,424 円	株式会社 フクヤ	現金 4,650 円
藤波 敬子	現金 10,000 円	株式会社 マルト商事	現金 6,221 円
匿名	現金 1,000 円	イオン九州株式会社イオン都城店	現金 12,473 円
匿名	切手 2,200 円	デュボン・スタイロ株式会社	現金 13,418 円
●佐藤き子造血細胞移植患者支援基金	現金 66,621 円	山本雅也バースディライブ募金箱	現金 9,200 円
日根 和美	現金 5,000 円	●キモチと。	現金 6,563 円
日根 和美	現金 5,000 円	●マンスリーサポート	現金 49,000 円
本田 真奈美	現金 5,000 円		
●志村大輔患者支援基金	現金 3,000 円		
三浦 正敬	現金 50,000 円		
●募金箱	現金 12,470 円		
株式会社 クスリのアオキ			
	インター松代象山屋薬局		

活動資金の支援を お願いします

銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 郵便振替口座 00150-4-15754
普通 5666655

口座名: 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会
郵便振替口座の振込用紙を郵送いたします。当協議会までご請求ください。